KCMY　山陽新聞　2014／9／23　広29　15版　【18】　アノテーション＝正常終了！　共通

おかやまコープ くらしをつくる Vol.15

おかやまコープの「生活支援サービス」

少子高齢化が進む現在、公的サービス（公助）や個人・家族（自助）だけでは、安心して暮らすことが難しくなってきています。そんな中、くらしの困りごとの対応に期待されているのが、新たなネットワーク型の生活支援（共助）。おかやまコープは県内32万世帯の組合員を持ち、事業や活動を組織的に行っている強みを生かして、昨秋から、さまざまなくらしの中の困りごとに対応する「生活支援サービス」を開始。毎月約1000件の家事援助を行うなど、活動は広がりを見せています。

くらしの中の「ちょっと困った」に対応

今年4月から、おかやまコープの生活支援サービス「はーとぴふるネット」を利用している岡山市の梶原百々代さん（75歳）。息子さんと二人で元気に暮らしていましたが、昨年10月に突然、腰部脊柱管狭窄症という病気に襲われて腰を5カ所も手術。その後リハビリを含め、計半年間も入院していました。

懸命のリハビリによって杖で歩けるまで回復し、今年3月に無事退院。しかし左脚は痺れており、脚を折り曲げて座ることができないなど、日常生活が不自由になってしまいました。

介護保険を補うサポート

ご主人を早くに亡くされ、家事はもちろん、長年さまざまなことを一人でこなしてきた梶原さん。帰宅後もリハビリを兼ねて積極的に動こうとしましたが、不自由な体では移動に伴う危険もありました。介護保険のヘルパーは「掃除なら掃除だけ」、自分の周りのことに限られることから、「掃除機掛け、仏壇のお参りなどできなくて困っていることを全て助けてもらえる」と、独自の魅力を感じ、「はーとぴふるネット」の利用を決めました。

現在、週2回1時間、梶原さんの自宅で、掃除や洗濯、買い物などのサポートを受けています。

作業後にホッとひと息。洗濯機を回し、干す前までの準備をするなど、梶原さんは積極的に手伝うそう

草抜きなど気付いたところは自主的に動く増田さん

介護保険を補うサポート

今年の春に初めて応援者に登録しました。梶原さんに感謝していただけた“役に立っている”と感じ、仕事では得られない喜びがあります。また夫をなくして一人暮らしの私の話もいろいろと聞いてくださるので、私自身心のリハビリをさせていただいている感じです。

【応援者・増田 美由紀さん】

岡山西エリア コーディネーターリーダー　紅林 典子さん

身近な人同士が助け合える社会に

「はーとぴふるネット」のコーディネーターはエリアごとに数人おり、利用者と応援者を結び付ける役割をしています。依頼を受けると、まずその方のお宅に伺い、「何がしてほしいか、何に困っているか」をじっかりと聞き取り、適した応援者を選んでいます。

利用される方は約9割が高齢者で家事援助がほとんど。「くらしの中で困っているちょっとしたこと」を頼まれることが多く、「介護保険のヘルパーさんにお願いできない部分を補う」のが私たちの役目だと思っています。

応援者と利用者のつながりは昔からある「近所の助け合い」のような関係。現代は昔のような付き合いが難しい部分もありますが、「はーとぴふるネット」の活動が広がっていけば、身近な人同士が助け合える社会になっていけるのではないかと思います。

おかやまコープの生活支援サービスとは

日々のくらしで「困った」ことがあるときに「総合窓口」に電話をすると、内容に応じた対応を進めてくれる仕組み。電話での内容を聞いた後は、家事援助などを行う「はーとぴふるネット」のほか、行政や地域団体、おかやまコープの事業や活動などを紹介し、依頼者の困りごとの解決を進めています。

ふだんのくらしのしあわせ のある地域づくり

おかやまコープの「ふくし」とは

おかやまコープは、だれもが自分らしく夢を持ち、安心して暮らすことのできる「ふだんのくらしのしあわせ」を応援し、それぞれの頭文字をとって「ふくし」のある地域づくりを目指しています。

一人暮らしの男性高齢者の支えに

今年93歳の川崎晃さん（岡山市）。壁に診断でも何の問題もない健康体のため、介護ヘルパーなどの支援を受けることなく、自立して一人暮らしをされています。80歳まで大学で生物学を教えていた川崎さんのライフワークの囲碁、70代で本格的に始めて趣味も充実し、現在も年に数回、作品を書道展に出品しています。

川崎さんがおかやまコープの“家事援助”を利用するようになったのは5年前。実さまが入院され、一人で困っていたときに「はーとぴふるネット」の母体である「コープくらしの助け合いの会」を知り、週に1～2度2時間、家の内外の掃除などを頼むようになりました。

男性が苦手な部分をサポート

身の回りのことは自分でこなす川崎さんですが、やはり男性のため、「細かい掃除は苦手」なのだそう。3年前から担当する応援者の大塚真希さん（43歳）が、男性が気づかない部分まで気を配りやすく、丁寧に掃除をしてくれるため、「どこも助かっている」と話します。作業は集中してこなす大塚さんですが、趣味や家族の話をするなど和やかな雰囲気も。時には川崎さんに相談されて服装を選んであげることもあるなど、しっかりと信頼関係が築かれています。

「『はーとぴふるネット』は経済的です。応援者の方は社会奉仕の心でされているので、人間性がいいですね」と川崎さん。同じく独居で困っている知人にこの活動を紹介し、喜ばれたこともあるそうです。

「今後も呼んで来てもらいたい。そうしないと生活できませんから」と「はーとぴふるネット」は、健康で自立した生活と暮らす川崎さんの大きな支えになっているようです。

「大塚さんの訪問前には簡単に片付けておく」（川崎さん）「体調を整えて休まないようにしている」（大塚さん）。思いやりがこの仕組みを支えている

町内会の清掃に参加が難しいため、近所の通りの清掃を頼むことも

子育てを積極的に応援

核家族化など社会環境の変化に伴って「子育てが不安、ストレスを感じる」という声が多いといわれます。そこでおかやまコープは子育て世代への応援にも注力。コープの店舗の会議室などを開く「子育てひろば」をはじめ、さまざまなサポートを行っています。

情報交換や交流の場にコープの店舗で開く「子育てひろば」

おかやまコープの県内7店舗で開いている「子育てひろば」は、0歳から就学前までの幼児とその保護者が自由に参加できる場所。友だちづくりや子育ての悩みなどの情報交換の場として人気です。参加無料、予約不要で開催時間内なら自由に参加・退室可能。買い物のついでにたち寄れる気軽さも好評です。

コープ東川原で開催されている「子育てひろば」

子育ての話を気軽に相談

須々木嵩代さん（41歳）
秀映ちゃん（2歳）

いつも家で2人きりで他の人と関わる機会がないのですが、ここに来るといろいろな年齢層のお子さんと接することができて子どもにとっていい刺激になっています。私も子育ての先輩方に気軽に相談させてもらっています。

スタッフのサポートがうれしい

那須 奈美さん（34歳）
緒実ちゃん（2歳）
祐太ちゃん（2カ月）

下の子が小さくあまり外に出られなかったのですが、家の近くにこのような場所があると出掛けやすくていいですね。またスタッフの方が下の子を見てくださるので、上の子とゆっくり遊んであげることができてよかったです。

社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会 地域福祉部 部長　山本 茂樹氏

安心・安全な地域生活へ新たな住民活動に期待

国においては、平成27年度より介護保険制度の改正に伴い予防給付訪問介護・通所介護を地域支援事業に移行しようとしています。このことは今後制度への地域住民の協力を強く求めることになります。

公的サービス（介護保険制度等）は利用者本人の自立度をより一層高める方向にサービスの組み立てを変えようとしています。そうした中、おかやまコープで取り組みを始められた「生活支援サービス」は、少子高齢化が進む中で地域住民の理解と協力（共助）が重要となり、今後これらの活動が非常に大切になると思われます。

そのほかにもさまざまな子育て応援を行っています

●個配割引
「子育てサポート制度」
妊娠中～3歳未満の子どもを持つ人へ、子育て情報の提供などを行っています。1～3歳まで「お誕生日プレゼント」もあります。

●会員組織
「子育てくらぶ　にこにこ」
妊娠中～3歳までの子どもを持つ人へ、子育て情報の提供などを行っています。1～3歳まで「お誕生日プレゼント」もあります。

●全店舗
「ももっこカードに協賛」
毎月5、15、25日に「ももっこカード」（備が交付する子育て家庭応援カード）をレジで提示すると購入金額に応じてポイントが付きます。

【子育てひろば開催スケジュール】

コープ西大寺 2階会議室	毎週火曜	10:30～12:00
コープ東川原 パル（駐車場真にある別棟）	毎週火曜	10:30～12:00
コープ山陽 組合員活動室	毎週火曜	10:30～12:00
コープ大福 2階会議室	毎週火曜	10:30～12:00
コープ大野辻 2階会議室	毎週水曜	10:30～12:00
コープ総社東 2階会議室	毎月第1水曜	13:30～15:00
コープ鴨方 組合員活動室	毎月第2火曜	10:00～12:00

■問い合わせ（組織本部）／TEL 086-256-2570（月～金曜の9:00～17:00）

企画・制作／山陽新聞社広告本部